

全米女子スポーツをリードする テキサス大学(上) 小笠原悦子

このページでは、ご意見、近況報告など、会員の皆さんの「声」をご紹介します。

今回から、3回にわたって、鹿屋体育大学で体育、主に水泳を指導されている小笠原悦子さんが「体育の科学」(一九九二年十一月号)に書かれた「全米女子スポーツをリードするテキサス大学」をご紹介します。

アメリカの女子スポーツ界、特に競泳において最も成功を収めているのは過去10年の間に1989年を除く全てのNCAA(全米学生選手権)のチームタイトルを獲得しているテキサス大学であるといえる。この間にコーチは3人も交代しているがいずれのコーチも優勝を果たしている。これにはそれだけの理由があるはずである。そこで今回はこの常時優勝を重ねるテキサス大学の水泳チームを支える組織IAW(The University of Texas at Austin Interscholastic Athletics for Women)について報告してみたい。

今年のNCAA(全米学生選手権)水泳選手権は3月21日から23日までインディアナポリスで行なわれ、テキサ

ス大学が2年連続の優勝を遂げた。この優勝祝賀会の席でのことだった。キャプテンを務めた選手の父兄の挨拶の中で、これだけの成功を収められるのもコーチたちの献身的な努力とそして彼女達が所属するテキサス大学のIAWのDirectorであるDr. Donna A. Lapiianoによるところが大きいと思う。また、彼女の力なしでは決してこれだけの成功は収められなかっただろうと思っている。我々は父兄として大変彼女の功績に対し感謝している」という内容のスピーチがあった。

さて、皆がPowerful Womanと呼ぶこのDr. Donna A. Lapiianoとはいったいどんな人物なのだろうか。Dr. Lapiianoは1975年に29歳で現在の地位であるテキサス大学のIAWのDirectorに就いた。彼女のバワフルな業績の一部を紹介すると、彼女が最初にDirectorに就任した1975年当時のIAWの年間の予算は\$57,000であったが、現在は彼女の力によってその額は\$3,500,000以上(およそ61倍)に達し、アメリカ国内では大学の女子競技連盟(Women's Athletic Department)

としてはトップの地位を獲得している。さらには、彼女のDirectorとしての就任中に377名の全米代表選手、14人のオリンピック選手、6つの競技における18の全米選手権タイトルを獲得。彼女は地元新聞の特集「テキサス女子スポーツに最も影響を及ぼした人物」という取材記事のコメントの中で「私はだれもがやったことのないことに挑戦することが好きなのよ」と述べていたが、まさに彼女はアメリカ女子スポーツ界をリードしてきた人物であるといえよう。

この彼女が組織するIAWには6つのゴールが掲げられ、それぞれのゴールに対して目標が定められている。これらのゴールはIAWが発行する「Coaching Staff Policy Manual」の中に記載されている内容であるが、この組織を理解する上で大変有効なものと思われるので紹介したい。

(2) 全ての学生選手は大学を4年間で卒業するべきである。もし、卒業前に離れる場合でも良い成績で離れるべきである。

(3) テキサス大学を代表する全ての選手は大学の代表として期待される社会的な技術をもって話す能力を示すべきである。

(4) NCAA(全米学生競技連盟) Division Iにおける「Top 10」プログラムの運営のために、効率的で金銭的に有効な支援システムを改善すべきである。

(5) 大学からの予算では運営が難しいため、他のプログラム(寄付金やスポンサーシップあるいは特殊なイベントの開催等)によって収入を最大にするべきである。

(6) 女性やこの組織に従事するグループがスポーツキャリアに関して極めて認められていないという事実を評価して、IAWはこれらの女性と少数のグループ(少数民族や身障者など)の従業員の数を増加させるように働きかけるべきである。

(次号に続く)